

## 2015 年度聖書の集い（第 7 回）

2016 年 1 月 13 日

桃山基督教会 古本 靖久

<http://momoyama.hannnari.com/>

- 1、聖歌 442 番 「ともにあつまる 語り合う」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「ローマの信徒への手紙 12 章 9 節～21 節」（新約聖書 292 ページ）
- 4、今日の内容  
神さまってどんな方？「⑦ 一緒に泣いてくださる方」

新しい年がはじまりました。今年もこうして、聖書のみ言葉にご一緒に聞いていきたいと思えます。今日は「ローマの信徒への手紙」の一部をお読みしました。この中に、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉がありました。今日は特にこの言葉について、お話したいと思えます。

### ① 喜ぶ人と共に喜びということ

まず「喜ぶ人と共に喜び」ということについて、考えてみたいと思えます。子育ての場面を思い出してみても、子どもが何か新しいことが出来たら、家族みんなで喜びを共有できたのではないのでしょうか。「よかったね」とみんなで言い合ったことでしょうか。

でも子どもが大きくなるにつれ、「ねえ、お母さん。こんなことができるようになったよ」と満面の笑みで話しかけて来た子どもに対して、「今忙しいから」とか、「いちいち言わなくてもいいのよ」と、一緒に喜べなくなりませんでしたか。

友達同士ではどうでしょうか。ちょっと前に「マザーゲーム」というドラマがありました。有名小学校にお受験をする母親同士のギスギスした関係を描いたものですが、そこまでいなくても、わたしたちの心の中には「ねたみ」というものがあります。

「ねたみ」は子どもたちの心の中にも、必ず起こってきます。喜ぶ人を見て、「何で自分はそうじゃないんだろう」と思い、悔しがる。そのときにこそわたしたちは子どもたちと一緒に、「喜ぶ人と共に喜び」ことの大切さについて考えていきたいと思えます。

## ② 泣く人と共に泣くということ

このことも、とても大事なことです。子どもたちを見ていると、子どもたちは自然に、泣いている子がいたらそばに行き、「どうしたの？」と声を掛け、「～ちゃんが泣いてる！」と助けを求めます。

でも聖書を読むと、一緒に泣きなさいと言っています。これはどういうことでしょうか。泣いている子の隣でまわりの子たちがみんな泣き始めたら、先生は大変です。お家でも、子どもが転んで泣いてしまったとします。そこへお母さんが駆け寄ってきて、一緒に泣き続けた。お父さんが帰ってきたら、きっとびっくりすることでしょう。

実はここで言っているのは、「共感する」ことの大切さです。今、隣にいる人はどのような思いでいるのか。嬉しいのか、悲しいのか、怒っているのか、不安なのか。まずそのことを知らなければ、「喜ぶ人と共に喜ぶ」ことも、「泣く人と共に泣く」こともできないのです。

わたしたちは子どもたちや周りの人たちと接するとき、その人がどのような気持ちでいるのか、気づいていきたいと思います。特に子どもたちの思いに共感できるように、その表情をいつも気にしていきたいと思います。

## ③ いっしょに歩こう！

先月、クリスマスのお話をしました。イエス様は空高いところではなく、わたしたちの間にいて下さるために、馬小屋の飼い葉おけにお生まれになりました。

なぜそのようなところにお生まれになったのか。それは、わたしたちと同じように、苦しみ、喜び、痛み、悲しみ、すべての事を知るためです。だからわたしたちが悲しいときには、その悲しみを分かってくださるし、わたしたちが涙を流しているときには、一緒に泣いてくださるのです。

わたしたちも子どもたちや周りの人たちと、そのように歩んでいければと思います。そして子どもたちにもそのような思いを持ってほしいと、心から願っています。

そしてもし、孤独を感じたとしても、一人ぼっちになってしまったと思っても、必ずあなたのそばにいて、同じ思いを持ってくれる人がいるということを、どうぞ覚えておいてください。子どもたちにもぜひ、そのことを伝えてあげてください。必ずそばにいる人、それは家族であり、友人であり、イエス様です。